

科目名	漢方薬物学特論					選択	1単位
◎責任教員							
担当教員	◎准教授 山岡 法子 教授 細山田 真						
開講年度	2022年度	配当年次	1～4年	配当学期	後期	授業方法	講義
授業の概要	漢方薬は、近年社会的ニーズの高まりを受け、現代医療において多くの疾患領域で用いられている。現代医療における漢方薬と生薬の適正利用に際し、薬理学的作用について学び、考察を行う。また実際に医療現場で用いられる漢方薬のエビデンスと利用についての問題点について説明ができる知識を習得する。毎回一つの疾患領域ごとに講義を行う。						
授業の到達目標	①漢方薬理学について、漢方薬が生体に及ぼす作用を最近の研究報告から知識を習得する。 ②臨床現場で頻用されている漢方処方について、現時点で明らかになっている各領域別の最新のエビデンスや現代医療への応用についての知識を習得する。						
授業計画	回数	担当者		行動目標			
	1	山岡 法子	准教授	漢方薬物特論の概要について説明できる。高齢者医療に関連する漢方薬について概説できる。			
	2	山岡 法子	准教授	女性医療、母子医療で用いる漢方薬について概説できる。			
	3	山岡 法子	准教授	がん領域に関連する漢方薬について概説できる。			
	4	山岡 法子	准教授	呼吸器疾患に関連する漢方薬について概説できる。			
	5	山岡 法子	准教授	認知症の行動・心理症状を中心とした精神神経疾患に関連する漢方薬について概説できる。			
	6	山岡 法子	准教授	上部消化管領域に関連する漢方薬について概説できる。			
	7	細山田 真	教授	下部消化管領域に関連する漢方薬について概説できる。			
	8	細山田 真	教授	肝胆膵、移植外科領域に関連する漢方薬について概説できる。			
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	事前学修：教科書を読み、薬剤について調べる。（60分）用語の意味について、可能な限り調べてから受講する。（30分） 事後学修：講義の内容を振り返り、全体の概要をまとめる。（90分）疑問点がある場合には、整理しておく。（30分） 当該期間に30時間程度の予復習が必要となる。						
教科書	『 Kampo Science Visual Review（漢方の科学化）』 北島政樹監修 ライフサイエンス社						
参考書	各回の講義内容に関連する資料（プリント）を配布する場合がある。						
成績評価の方法および基準	課題レポート100% 授業の到達目標の達成状況を提出レポートにより点検、評価する。欠席は1回につき10点減点する。						
その他履修上の注意事項	課題レポートに対してのフィードバックは、必要な場合には個別に行う。 この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。						